

■ 視察先提供資料 2

専門家への活動支援で見込める成果

専門家は地域からの期待に応え、
農業振興に一層寄与することができる

成果



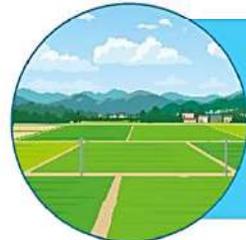
専門家

- データに基づく技術継承が可能に
- 新技術の普及促進



生産者

- 栽培における失敗リスクの低減
- 新規作物栽培の挑戦機会増加



地域

- 新たな産地形成
- 耕作放棄地の削減

等

■ 視察先提供資料 2

ローカル5Gを活用した遠隔営農支援

ローカル5Gを活用した高精細映像配信・ロボティクス× 全自動ハウスを通じた遠隔営農支援を東京都と開始



公益財団法人 東京都農林水産振興財団

Tokyo Development Foundation for Agriculture, Forestry and Fisheries

(農林水産分野における東京都の政策連携団体)



最先端農業ハウス (NTTe-City Labo)



ローカル5G



映像データ等

カメラ等の遠隔操作
栽培アドバイス

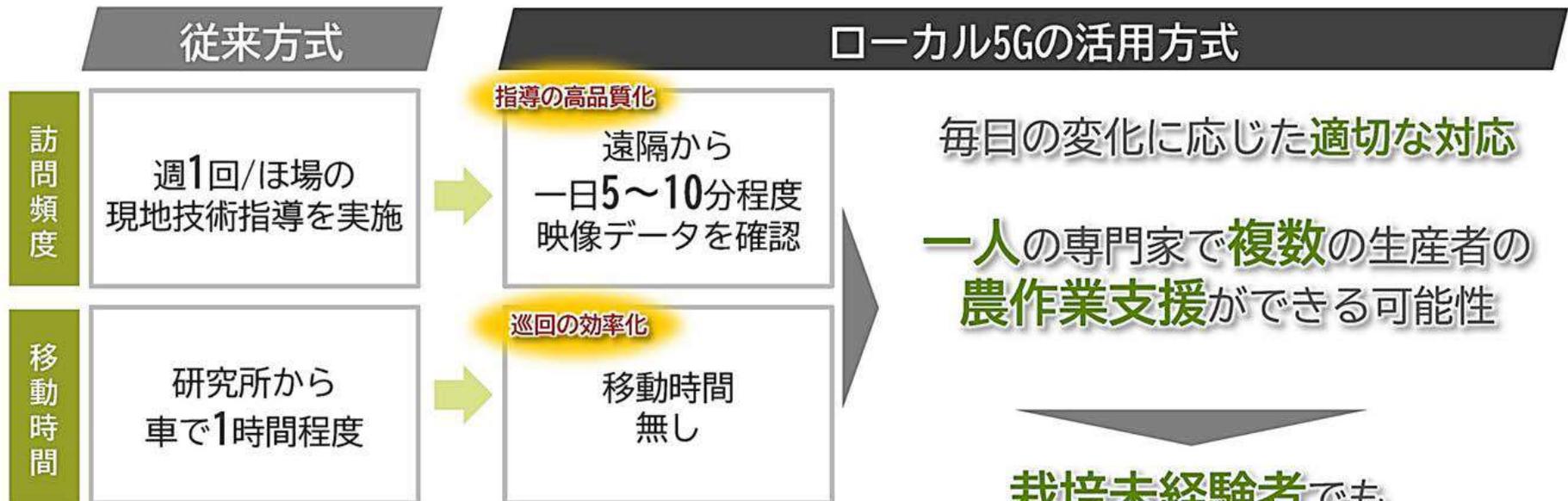
農林総合研究センター (立川)



■ 視察先提供資料 2

遠隔営農支援の成果

高画質映像を通じ、現地に赴くことなく効率的な指導を実施
栽培未経験者でも失敗のない栽培を実現



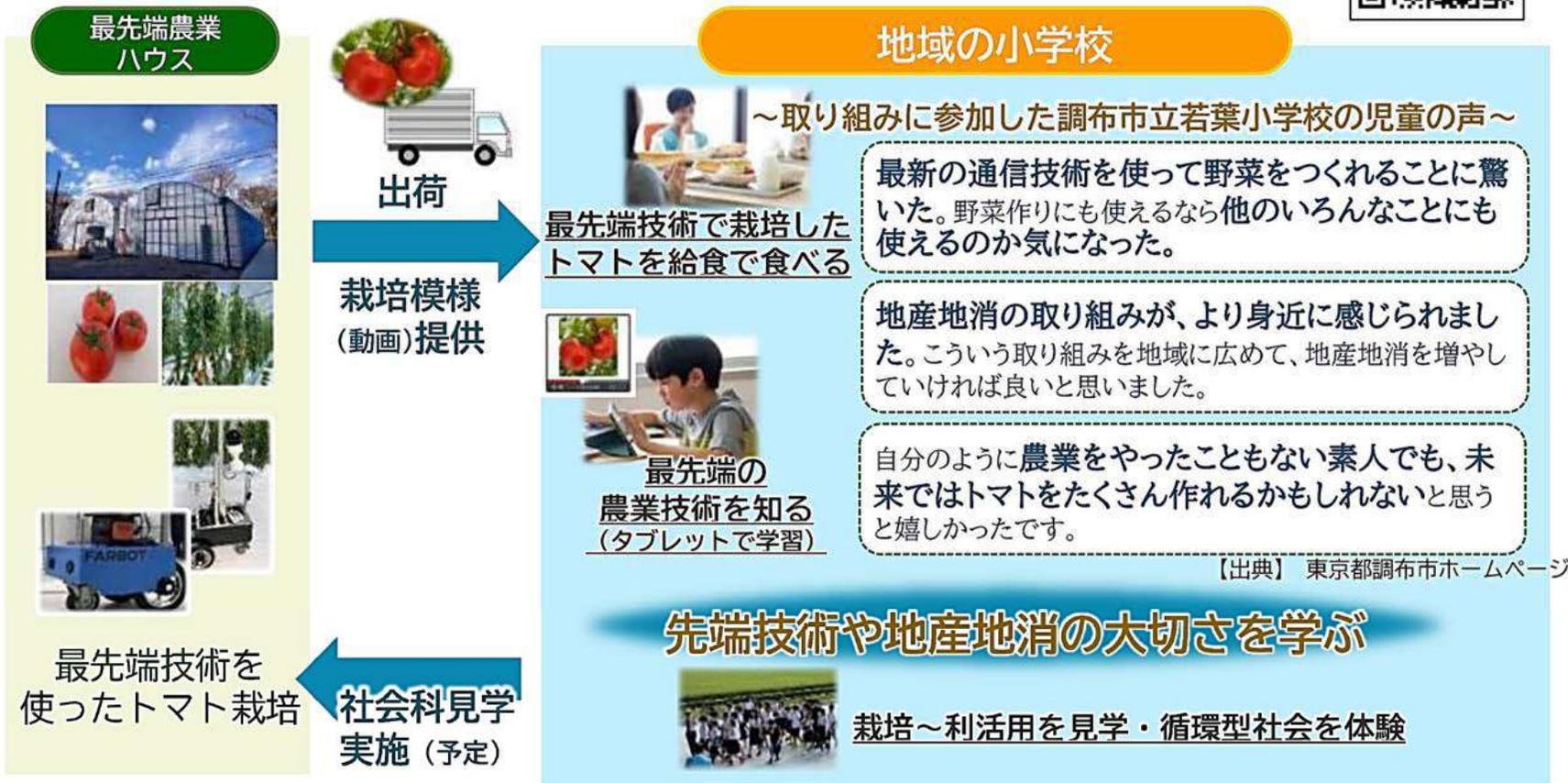
栽培未経験者でも
定植~出荷まで完遂し
美味しいトマトの栽培に成功



■ 視察先提供資料 2

地域の食育推進との連携

先端技術や地産地消を体験する機会を提供し
食育推進・地域教育にも取り組みを拡大

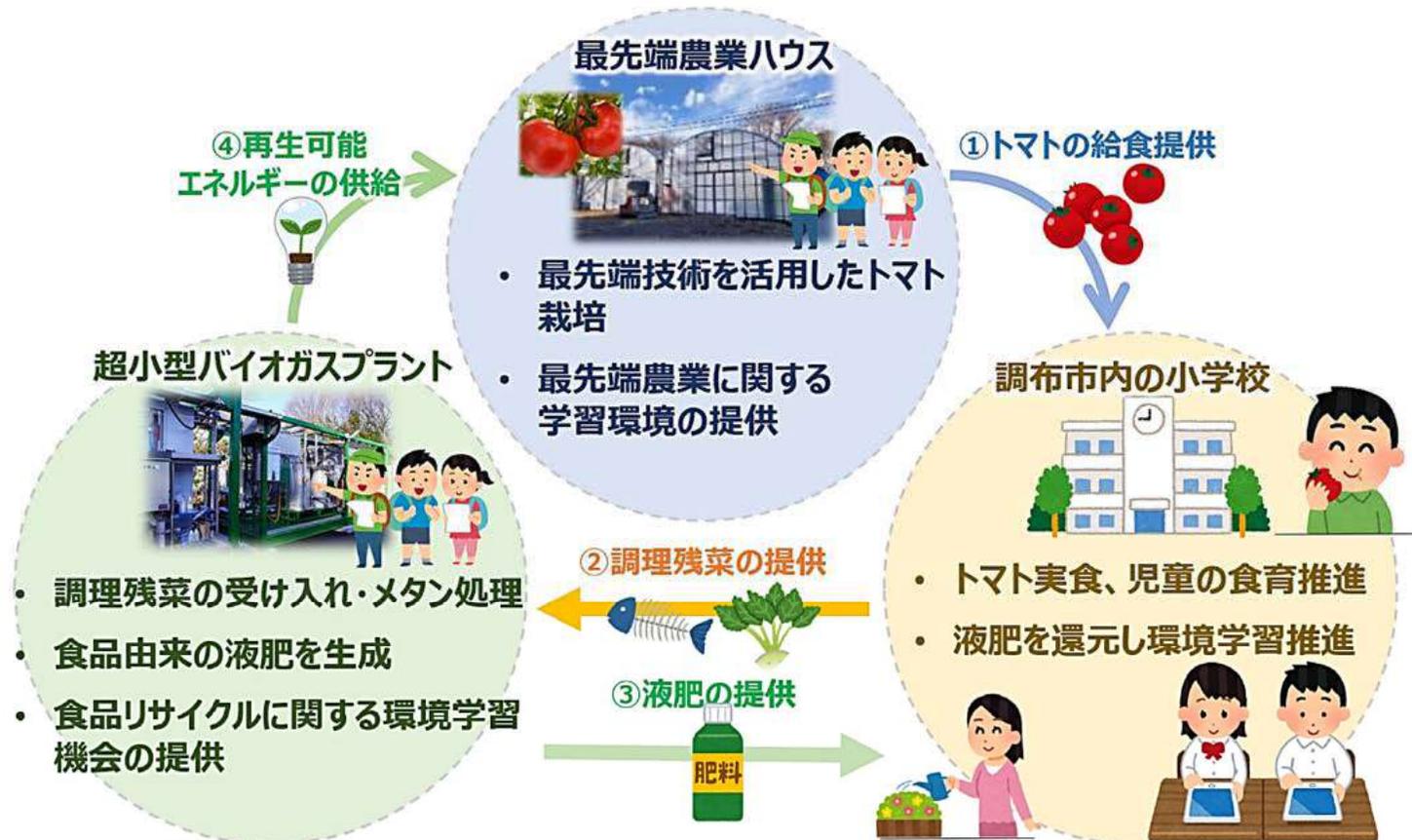


農林水産省「デジタル食育ガイドブック」に掲載

■ 視察先提供資料 2

バイオガスプラントと連携した循環型モデル

学校給食調理残菜から再生可能エネルギーや液体肥料を生産
 実際に、液体肥料を学校の花壇に還元するなどの環境学習にも活用



■ 視察先提供資料 2

背景

加工業務用タマネギ供給の多くを輸入に依存しているが、東北地方での産地形成により、国産タマネギの周年流通実現をめざす

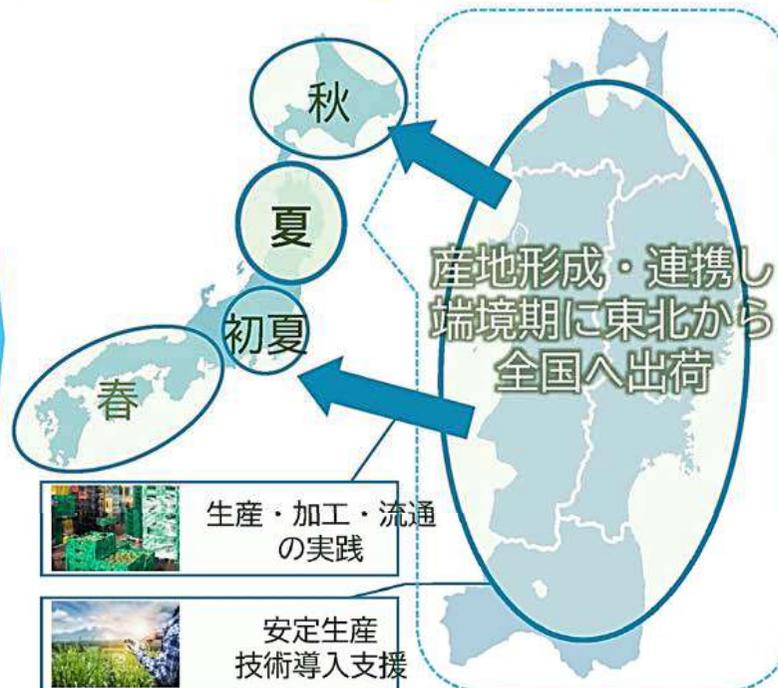
従前の国内タマネギ供給状況

栽培期間	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
佐賀・兵庫・長崎		出荷								定植		
その他(関東)			出荷		端境期				定植			
北海道				定植							貯蔵・出荷	



タマネギ輸入

めざす姿



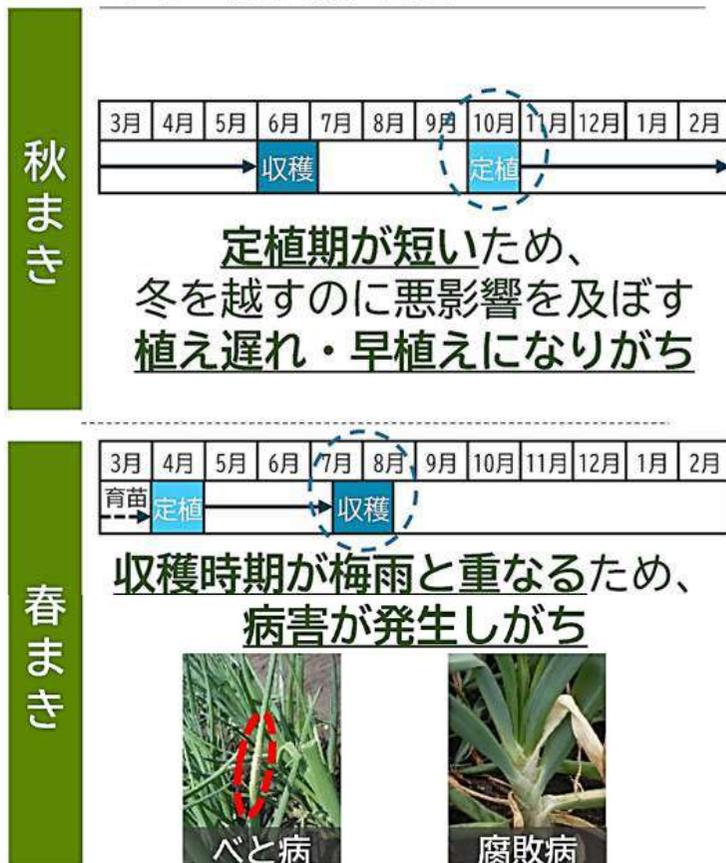
加工業務用タマネギの多くを輸入に依存 端境期を解消し、国産タマネギを周年流通

■ 視察先提供資料 2

経緯

東北の気象条件下でも専門家のノウハウにより安定生産を実現

東北の栽培時期と課題



■ 視察先提供資料 2

課題

東北全体の産地形成をめざす上では、
より効率的・効果的に専門家が活動できるよう支援する必要がある



農研機構東北農業研究センター
に所属する専門家



■ 視察先提供資料 2

遠隔営農支援プロジェクトのロードマップ

AIの更なる精度向上とロボットオペレーションにより
 専門家・生産者の一層の負担軽減をめざす

遠隔営農支援の活用イメージ

